大阪府自殺対策に関する意識調査【概要版】

【資料3-6】

■目的 ： 府自殺対策基本指針の見直しにあたり、府民の自殺対策の認知度やうつ・自殺に対する意識などを把握
■調査期間 ： 令和4年7月14日（水）～19日（火）
■調査対象 ： 18歳以上の府民 2,000名
■調査方法 ： WEB回答方式
インターネットリサーチ会社が保有するモニターから上記対象に該当する方に対し調査協力を依頼
国勢調査結果に基づいた居住地域別男女別年代別に回収目標とするモニター数を割り当て、2000人の回答を得るまで配信
■調査項目 ： ①大阪府の自殺対策、②悩みやストレスに関すること、③うつに関すること、④自殺に関する意識、⑤今後の自殺対策
■回収数 ： 2,008名（男性 952名、女性 1,048名、答えたくない 8名）

＜回答者内訳＞※設定した年代の割り当て 30歳未満 15.3%、30代 13.4%、40代17.7%、50代16.3%、60代以上37.3%

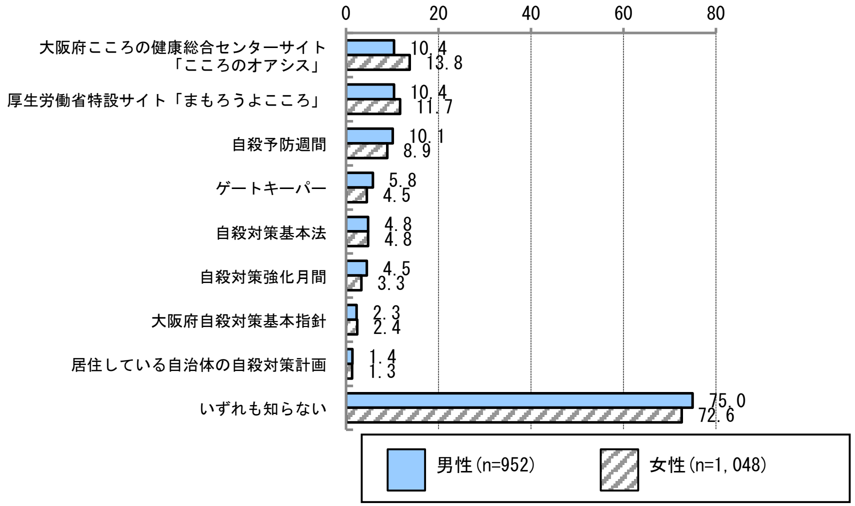
年代	18・19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
男性	12	140	132	174	160	212	110	12
女性	13	141	136	180	166	285	116	11
合計	25(1.2%)	282(14.0%)	270(13.4%)	357(17.8%)	327(16.3%)	498(24.8%)	226(11.3%)	23(1.1%)

職業	勤め人（常勤）	勤め人（パート等）	自営業	自由業	専業主婦・主夫	無職	学生	その他
男性	448	144	67	37	8	214	27	7
女性	196	292	26	18	368	119	28	1
合計	645(32.1%)	439(21.9%)	93(4.6%)	56(2.8%)	377(18.8%)	335(16.7%)	55(2.7%)	8(0.4%)

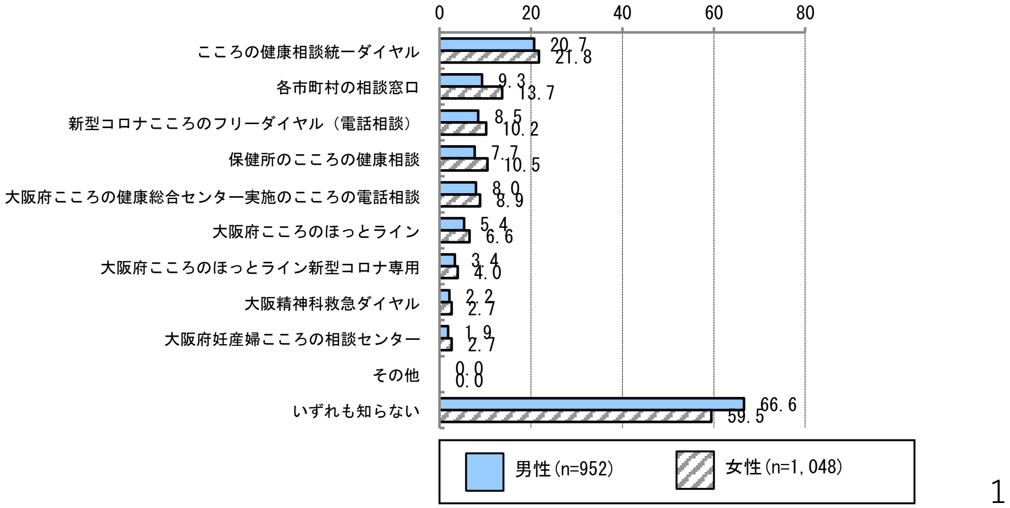
主な調査結果①（大阪府の自殺対策）

○「自殺対策の認知度」「府相談窓口の認知度」ともに、「いずれも知らない」が最多。
○「自殺対策の認知度」で最も認知されているものは、大阪府こころの健康総合センターのサイト「こころのオアシス」。
相談窓口の中では、「こころの健康相談統一ダイヤル」。

自殺対策の認知度 （複数回答可）



大阪府相談窓口で知っているもの （複数回答可）

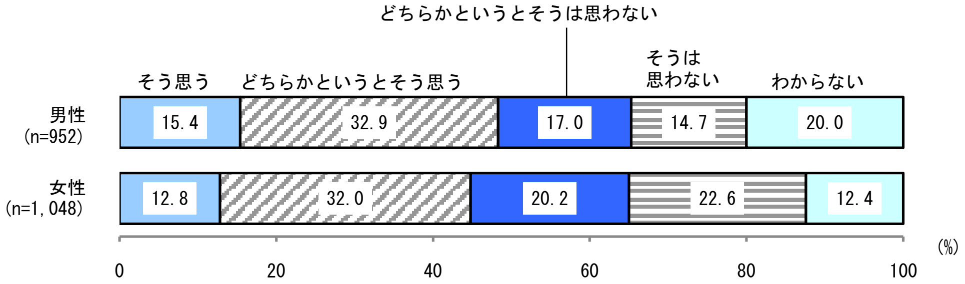


大阪府自殺対策に関する意識調査【概要版】

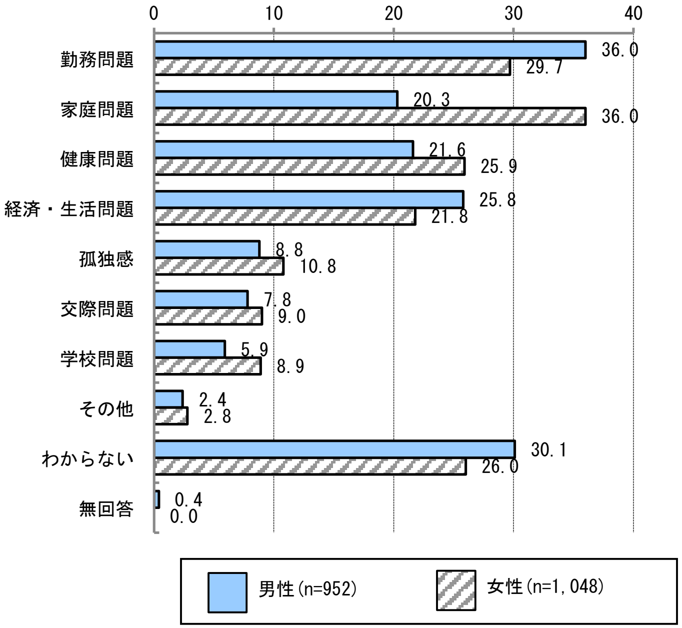
主な調査結果②（悩みやストレスに関すること）

○「相談や助けを求めることへのためらい」については、男女ともに「どちらかというとそう思う」が最も高く、「そう思う」と合わせると全体の約半数を占める。
　また、女性に比べて男性の方がためらいを感じる割合が高い。
○「相談や助けを求めることにためらいを感じる理由」としては、男女ともに「悩みを話すことに抵抗を感じるから」が最も高い。
○「悩みやストレスの原因」としては、男性が「勤務問題」、女性が「家庭問題」が最も高く、男女合わせると「勤務問題」が最多。

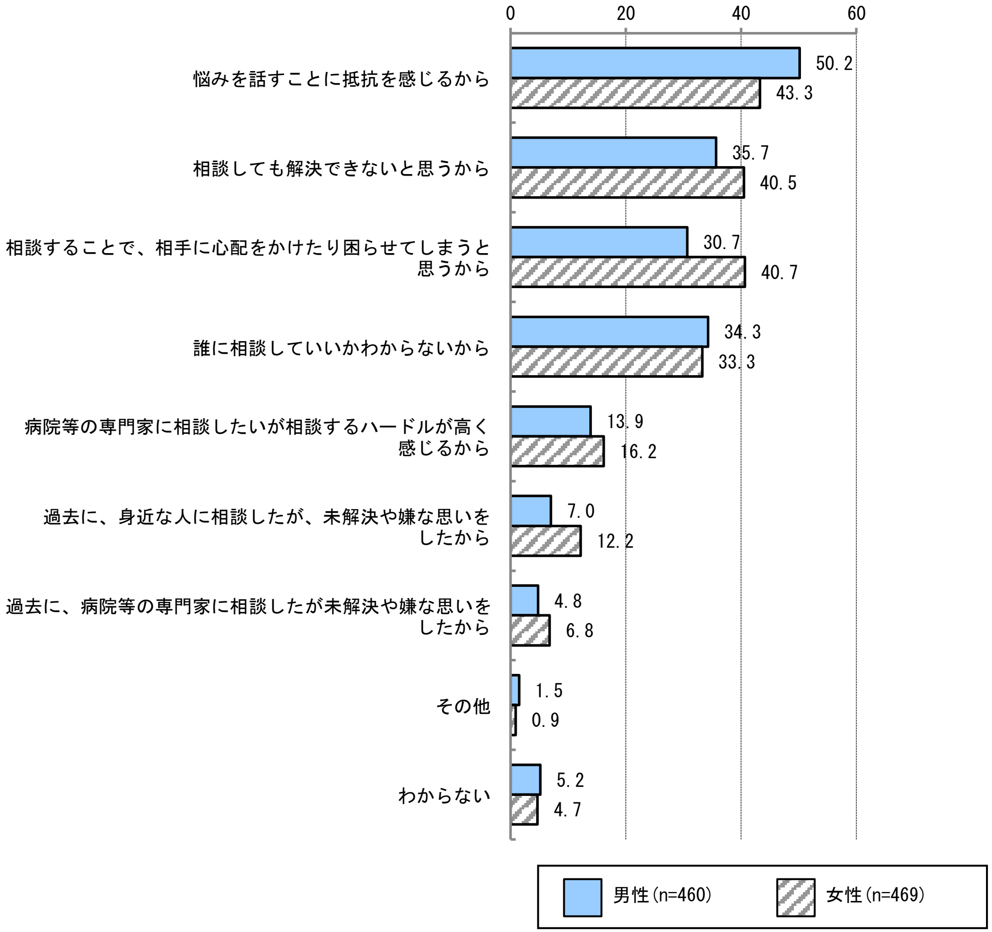
相談や助けを求めることへのためらいの有無



悩みやストレスの原因　（複数回答可）



相談や助けを求めることにためらいを感じる理由　（複数回答可）

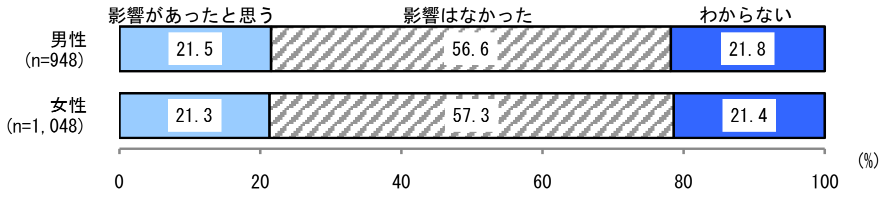


大阪府自殺対策に関する意識調査【概要版】

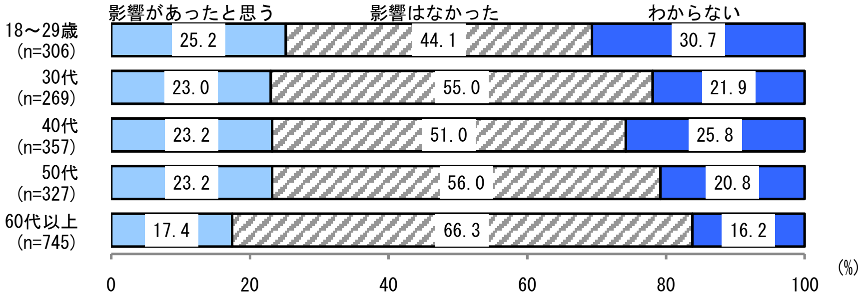
主な調査結果②（悩みやストレスに関すること）

〇「悩みやストレスの原因として新型コロナ感染症拡大の影響」を確認したところ、「影響があったと思う」と回答したのは約2割。
　年代別では30歳未満が他の年代よりやや高い。
〇悩みやストレスの原因として新型コロナ感染症拡大の「影響があったと思う」の原因としては、男女ともに「趣味や娯楽がしにくくなった」が最多。
〇「最も影響を受けた時期」としては、「令和2年1～5月頃」を回答した者が最多。

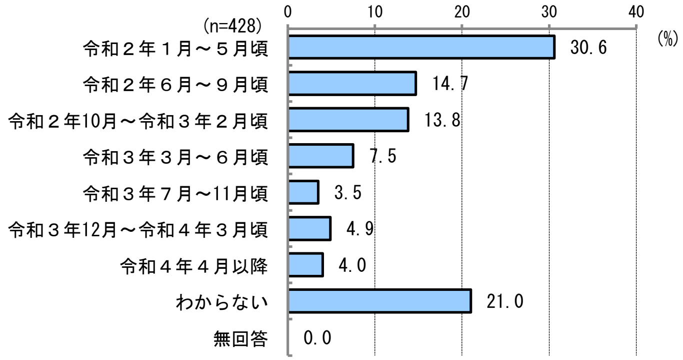
悩みやストレスの原因として新型コロナ感染症拡大の影響の有無



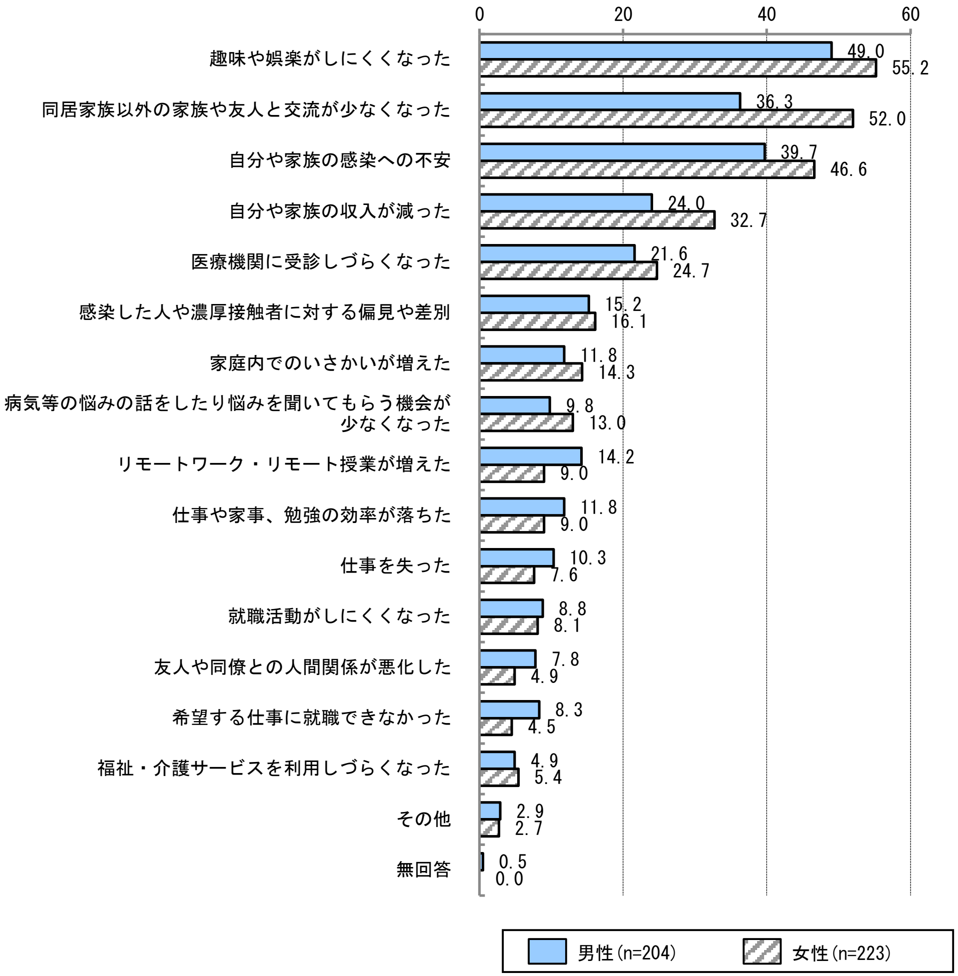
悩みやストレスの原因として新型コロナ感染症拡大の影響の有無（年代別）



最も影響を受けた時期



新型コロナ感染症拡大の影響による悩みやストレスの原因 （複数回答可）

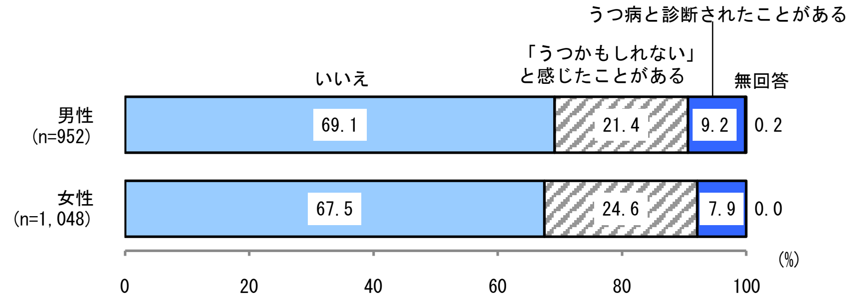


大阪府自殺対策に関する意識調査【概要版】

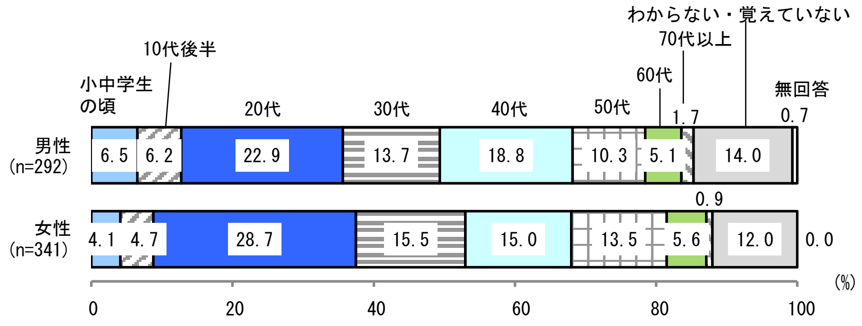
主な調査結果③（うつに関すること）

〇「うつと感じたことやうつ病と診断されたことの有無」について、男女ともに約1割がうつ病と診断されたことがあり、性年代別では40代男性が最も高い。
「うつ病と診断されたことがある」「うつかもしれないと感じたことがある」を合わせると、男女ともに全体の約3割にその経験があり。
〇うつ経験がある者が、うつ状態に初めてなった時期は、男女ともに約5割を若年層（40歳未満）が占めており、20代が年代別割合の最多。
〇うつの原因としては、男性が「勤務問題」、女性が「家庭問題」と回答した者が最も割合が高く、男女合わせると「勤務問題」が高い。

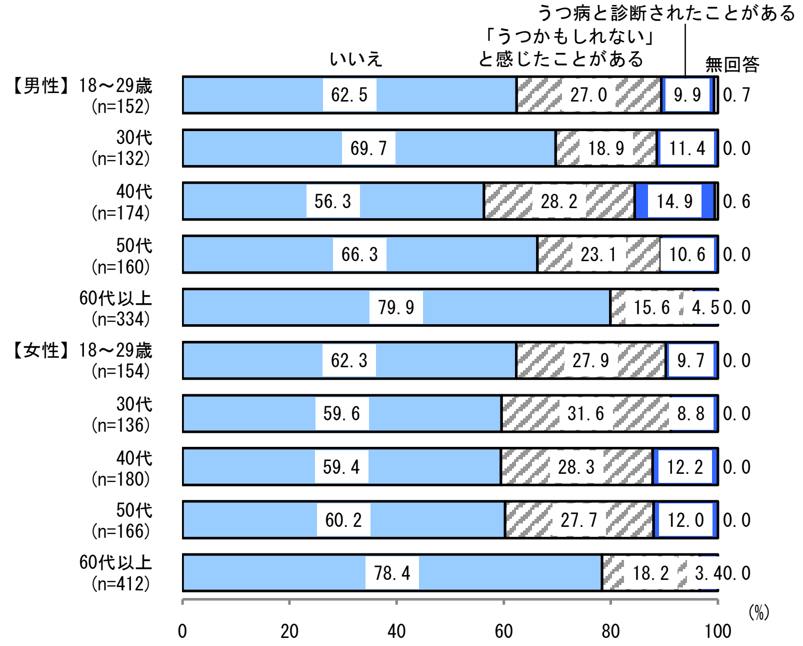
うつと感じたことやうつ病と診断されたことの有無



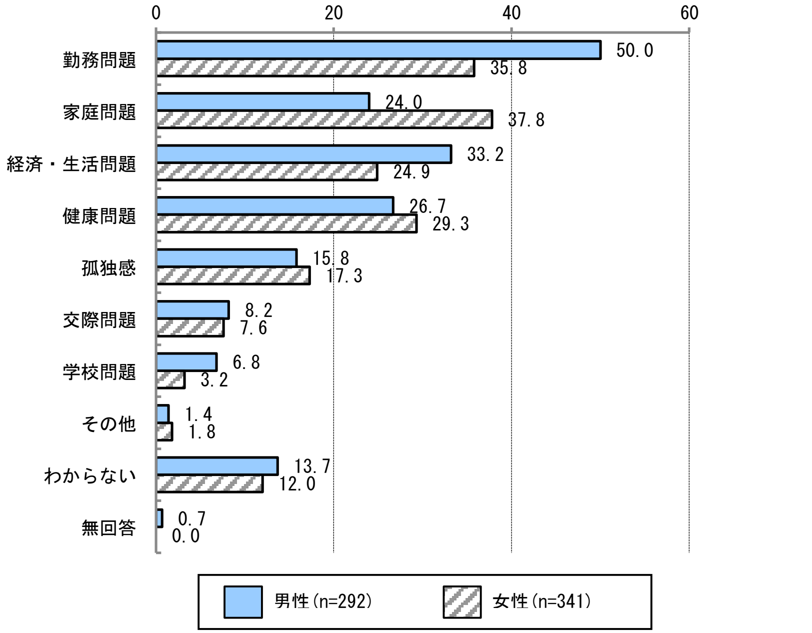
うつ状態に初めてなった時期　（うつかもしれないと感じたことがあると回答した人も含む）



うつと感じたことやうつ病と診断されたことの有無（性年代別）



うつの原因　（うつかもしれないと感じたことがあると回答した人も含む）　（複数回答可）

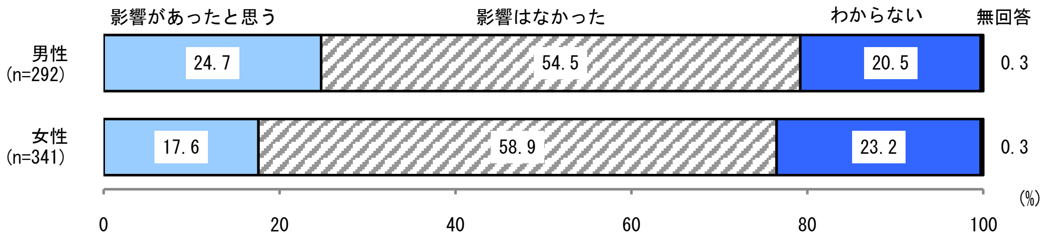


大阪府自殺対策に関する意識調査【概要版】

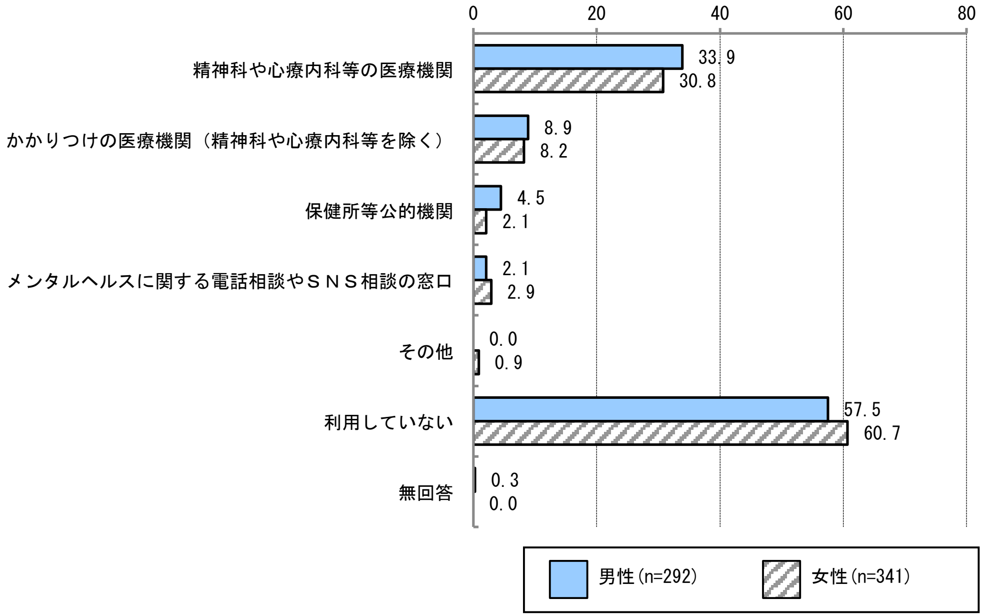
主な調査結果③（うつに関すること）

〇うつ状態の原因として新型コロナ感染症拡大の「影響があったと思う」と回答したのは、全体の約2割で、女性に比べ男性の方が割合が高い。
〇相談機関等の利用については、男女とも約6割が利用しておらず、利用した中で最も割合が高かったのは精神科や心療内科等の医療機関。
〇相談機関を利用しなかった理由について、男女とも最も割合が高かったのは、「精神的な悩みを話すことに抵抗があるから」。「どこを利用したらよいかわからなかったから」も男女ともに割合が高い。

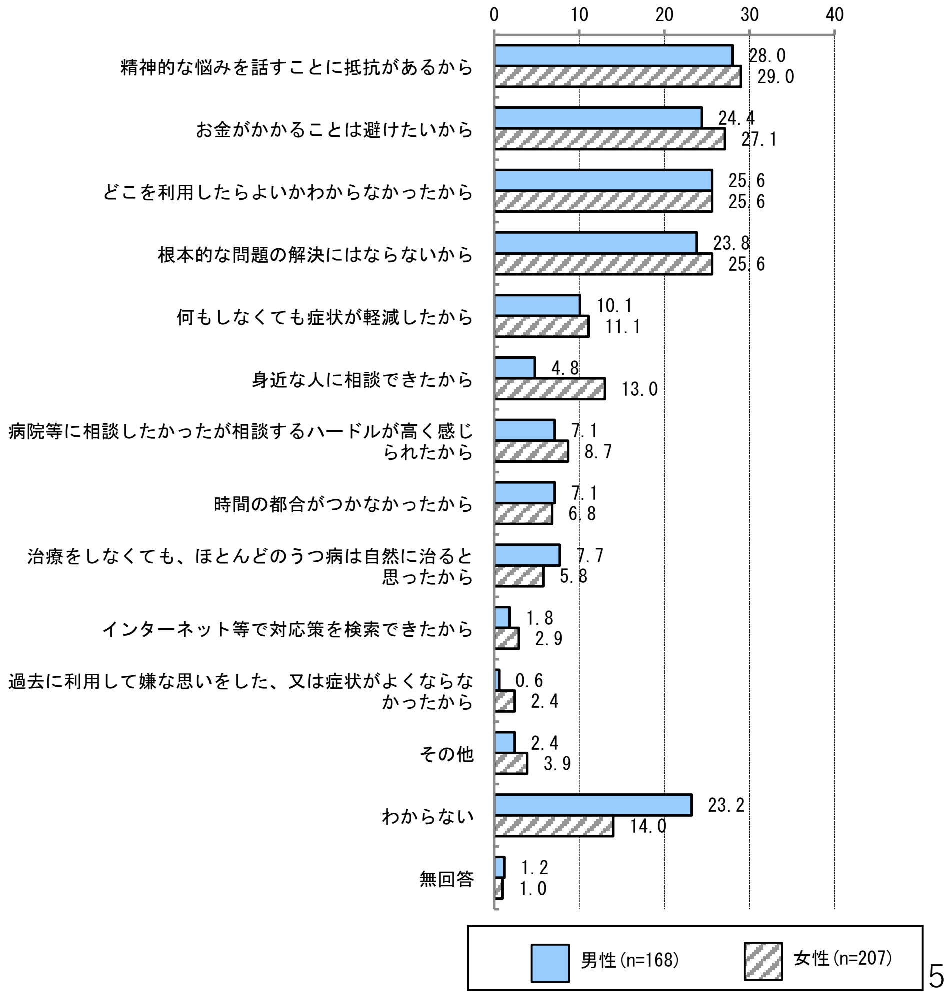
うつ状態の原因として新型コロナ感染症拡大の影響



利用した相談機関 （複数回答可）



相談機関を利用しなかった理由 （複数回答可）

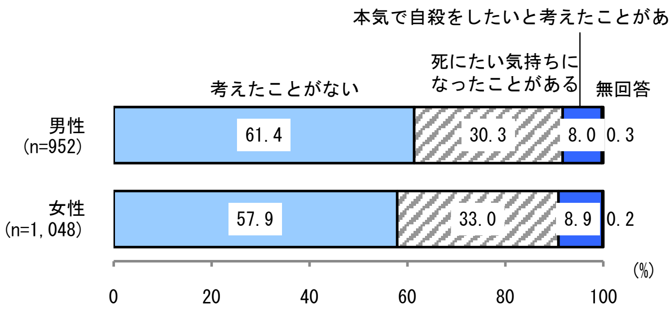


大阪府自殺対策に関する意識調査【概要版】

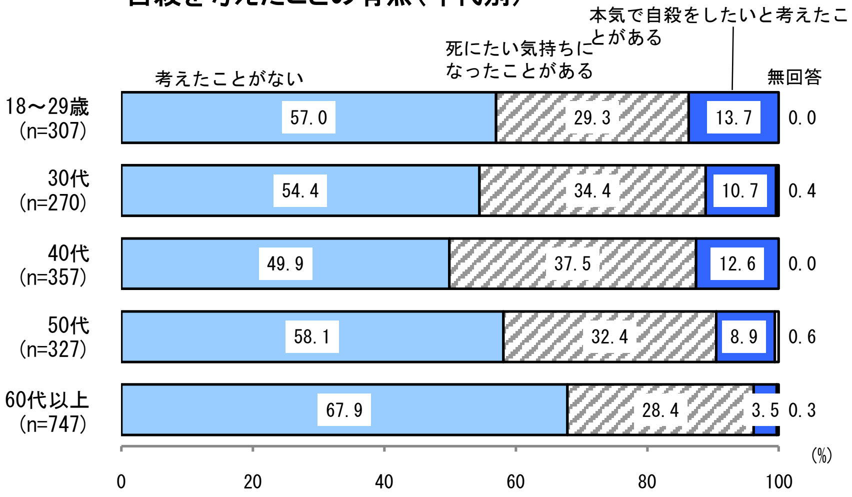
主な調査結果④（自殺に関する意識）

〇「自殺を考えたことの有無」について、男女ともに約1割が「本気で自殺をしたいと考えたことがある」と回答、年代別では30歳未満の割合が最も高い。
「本気で自殺をしたいと考えたことがある」「死にたい気持ちになったことがある」を合わせると、男女とも約4割にその経験があり。
〇自殺念慮の経験があると回答した者が、初めて自殺を考えた時期は、男女とも20代の割合が最も高いなど、若年層（40歳未満）が占める割合が高い。
〇自殺を考える原因として新型コロナ感染症拡大の「影響があったと思う」と回答したのは、全体の約1割で、女性より男性の割合が高く、年代別で最も割合が高いのは30歳未満。

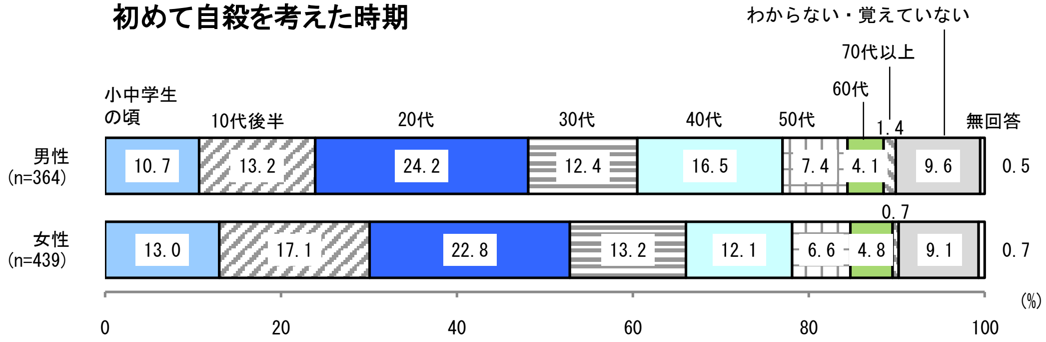
自殺を考えたことの有無



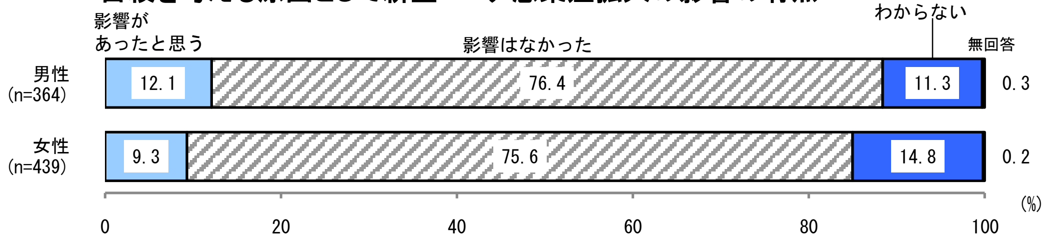
自殺を考えたことの有無（年代別）



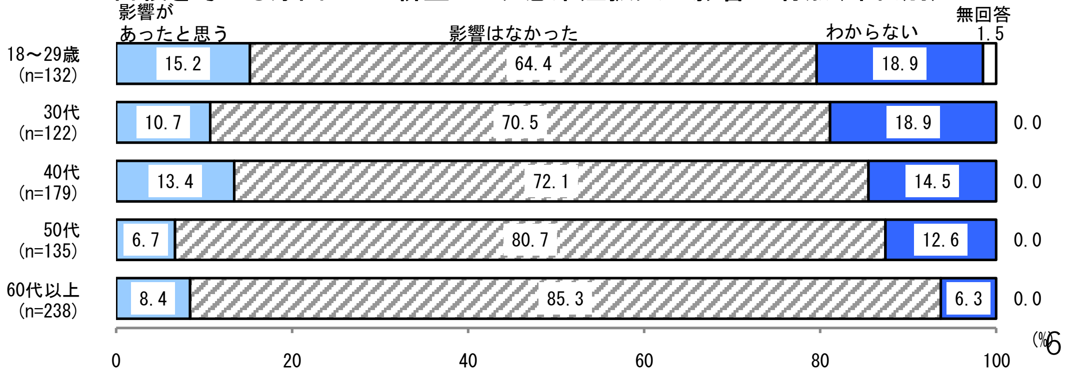
初めて自殺を考えた時期



自殺を考える原因として新型コロナ感染症拡大の影響の有無



自殺を考える原因として新型コロナ感染症拡大の影響の有無（年代別）

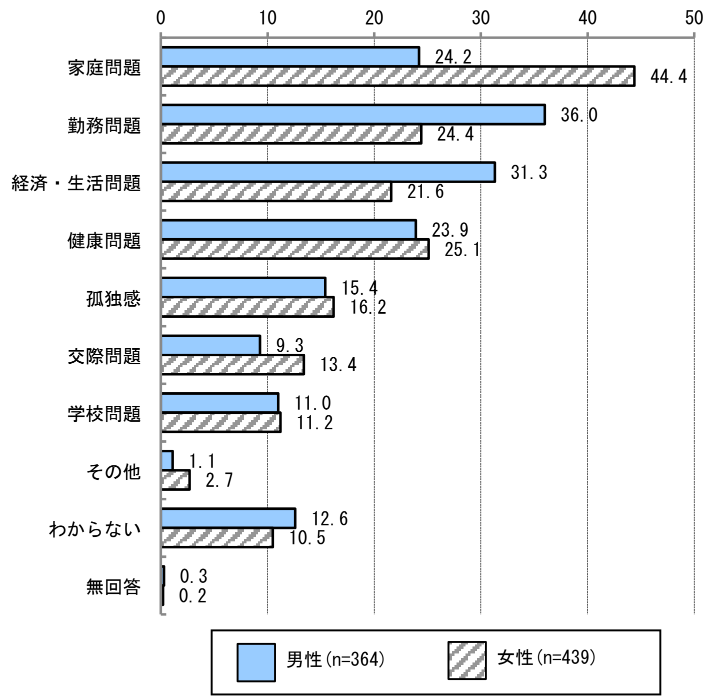


大阪府自殺対策に関する意識調査【概要版】

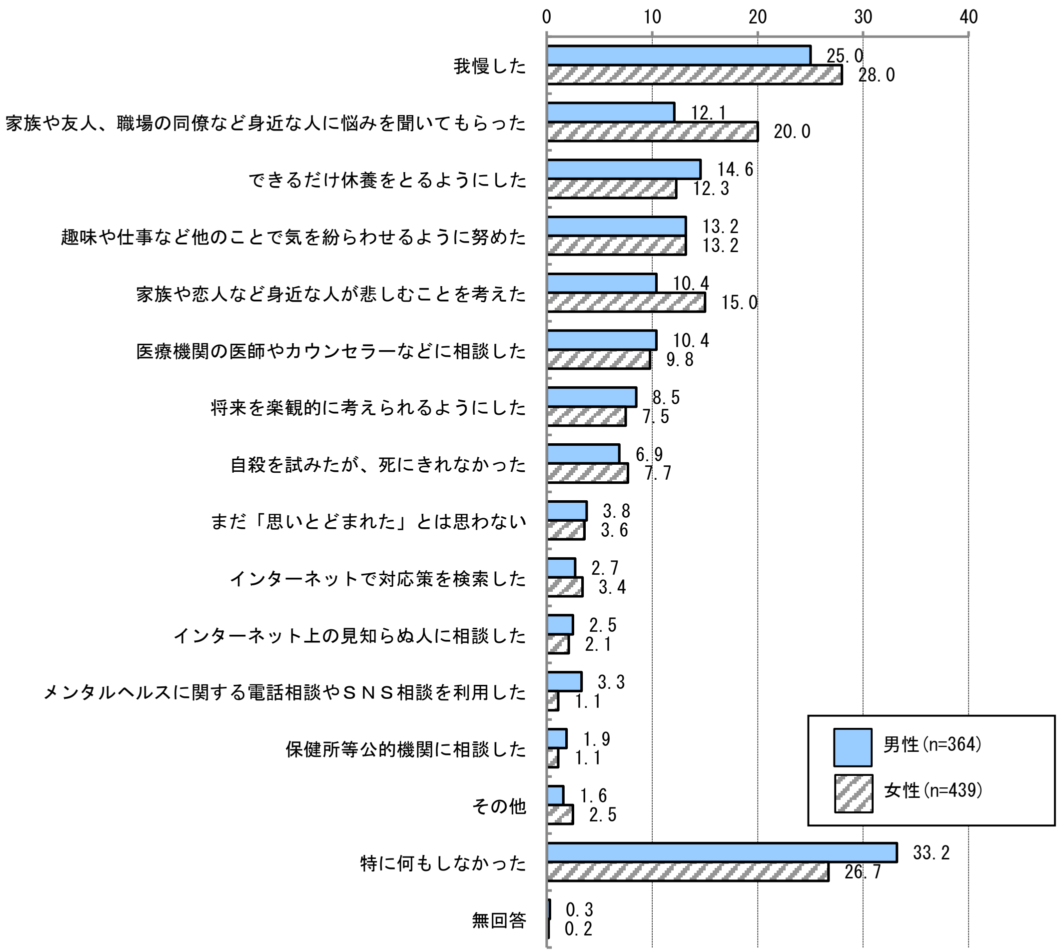
主な調査結果④（自殺に関する意識）

〇自殺を考える原因としては、男性が「勤務問題」、女性が「家庭問題」の割合が最多。男女合わせると「家庭問題」が最多。
〇自殺を思いとどまった理由は、「特に何もしなかった」「我慢した」の割合が高く全体の半数以上を占める。男女で比べると「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」で男女差が大きい。

自殺を考える原因　（複数回答可）



自殺を思いとどまった理由　（複数回答可）

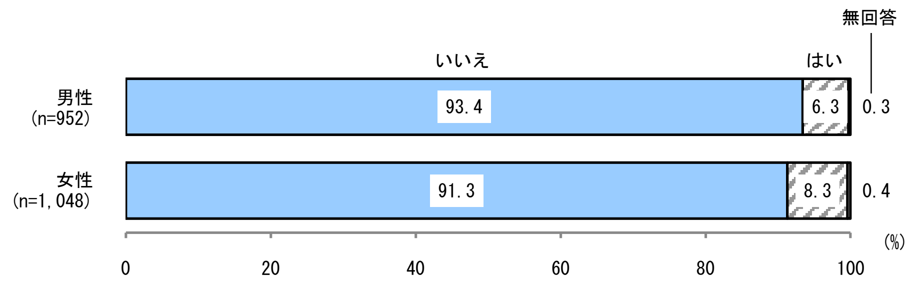


大阪府自殺対策に関する意識調査【概要版】

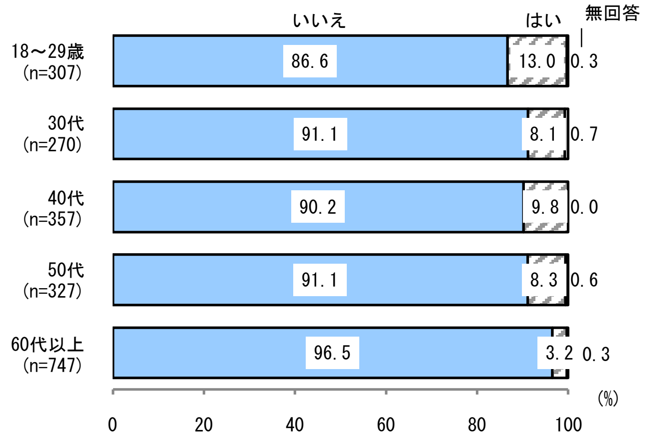
主な調査結果④⑤（自殺に関する意識・今後の自殺対策）

○「自殺未遂の経験の有無」について、男女ともに約1割が自殺未遂経験あり。年代別では30歳未満の割合が最多。
○「今後求められる自殺対策」について、「特にない」を除いて、男女とも最も回答が多かったのは「相談窓口情報等のわかりやすい発信」。
　以下「相談体制の充実（メールやSNS等を用いた相談窓口の充実など）」「必要な時に適切な医療が受けられる精神科医療体制の整備」の順に多かった。

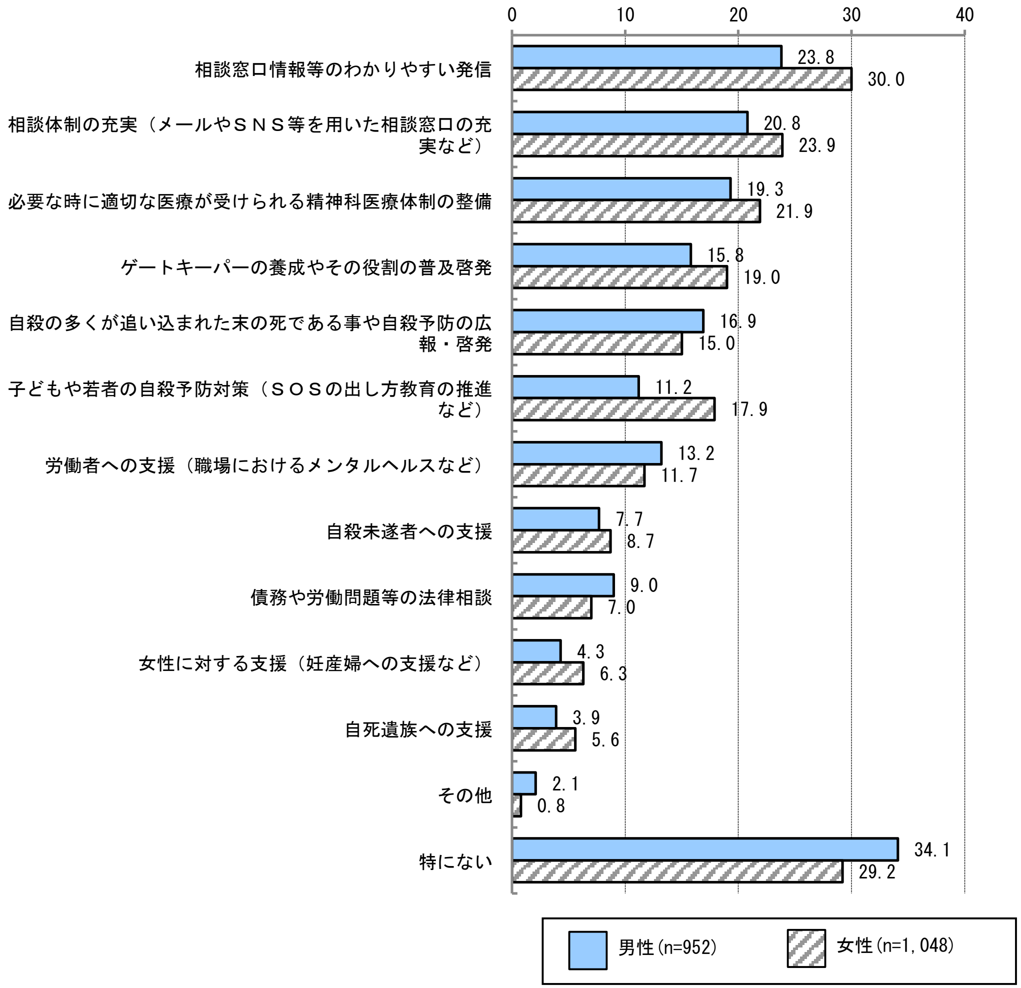
自殺未遂の有無



自殺未遂の有無（年代別）



今後求められる自殺対策　(3つまで回答可)



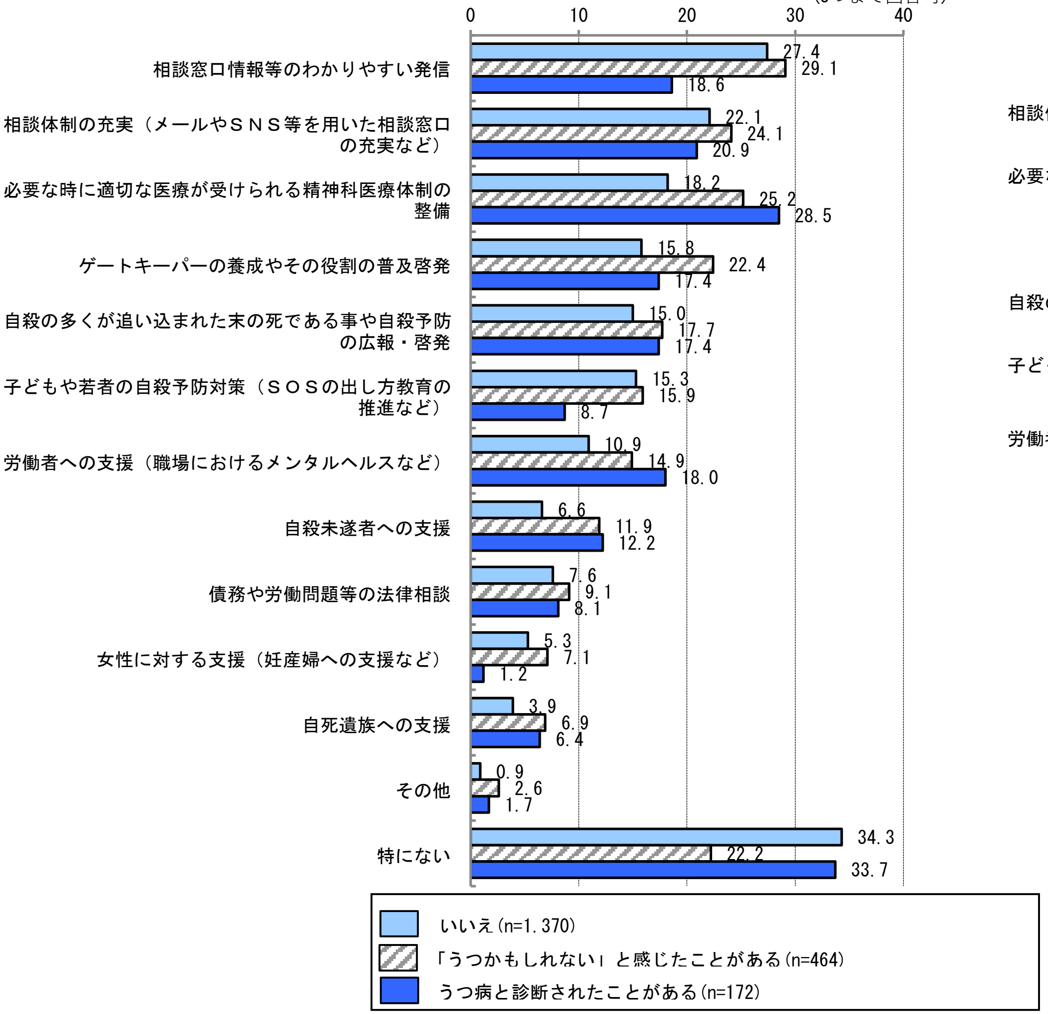
大阪府自殺対策に関する意識調査【概要版】

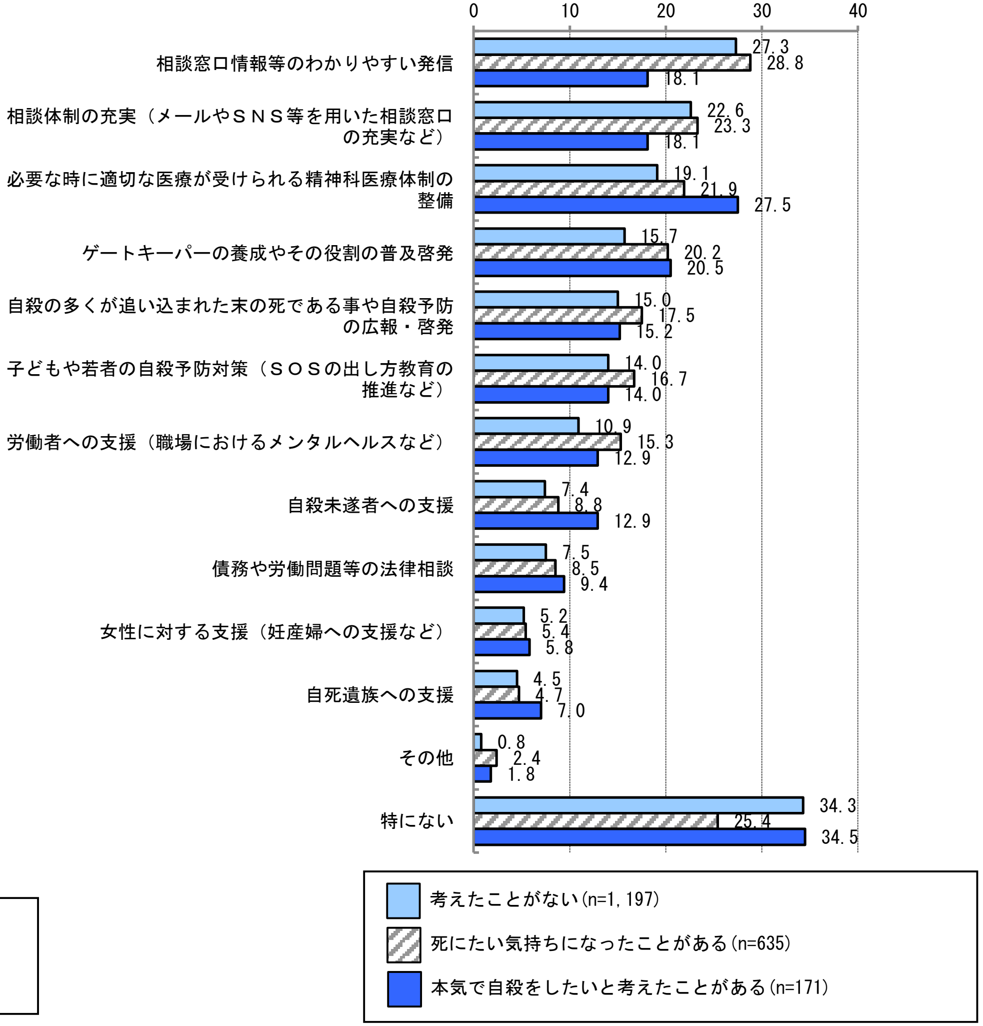
主な調査結果⑤（今後の自殺対策）

〇「うつ病と診断されたことがある」人、「本気で自殺を考えたことがある」人に対し、今後求められる自殺対策を尋ねたところ、両者とも精神科医療体制の整備を求める割合が最も高い。
〇一方で、「うつかもしれないと感じたことがある」人、「死にたい気持ちになったことがある」人では、「相談窓口情報等のわかりやすい発信」の割合が最も高い。

今後求められる自殺対策（うつと感じたことやうつ病と診断されたことの有無別）

（3つまで回答可）



今後求められる自殺対策（自殺を考えたことの有無別）

（3つまで回答可）